



## 武蔵野の面影が残る田無試験地と地域住民のかかわり

### 田無試験地 鶴見康幸

#### 武蔵野の雑木林と田無試験地の変遷

田無試験地は、本郷キャンパスから北西へ22km、武蔵野台地のほぼ中央部にある。開設当時の植生は、アカマツを主体としてコナラ、クヌギなどが混交する雑木林であった。これは農家が薪材や堆肥の原料の供給源として利用してきたものである。

田無試験地付近の航空写真を年代別に比較すると、戦後の急速な都市化によりこれらの武蔵野の面影を残す雑木林は急激に減少してきたことがわかる。田無試験地は、アカマツ、クヌギ、コナラ、エゴノキ等、当時の面影をしのぼせる要素が今なおまわって残されており、歴史的にも貴重な樹林地となっている。



1944年

1974年

1999年

航空写真にみる田無試験地周辺の変遷



ハンカチノキ

ヒトツバタゴ

#### 地域住民の利用状況

30年ほど前から、田無試験地周辺の住民より試験地内の公開を求める声が高まり、平日の午前9時から午後4時30分まで見学を許可するようになった。また、休日にも公開して欲しいとの要望が高まってきたことから、平成9年から休日公開を、見学者の多い春と秋の時期に5~6回実施してきている。

しかし、公開日による見学者数のばらつきが大きいことが指摘されていた。また、現在は、事務所正面玄関に許可申請用の帳面を置き、見学者が記入する形式となっているが、実際の見学者数はもっと多いのではないかという予想があった。

そこで、平成15年から19年に記帳された人数を月別に集計し、月ごとの見学者数を調べた。また平成20年度の休日公開日と平日において、実際に見学者数をカウントし、記帳ノートに記載された人数との比較を行なった。

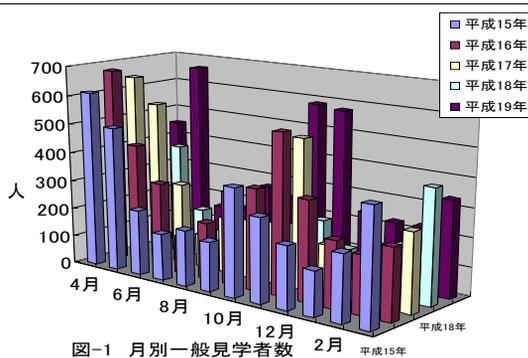


図-1 月別一般見学者数

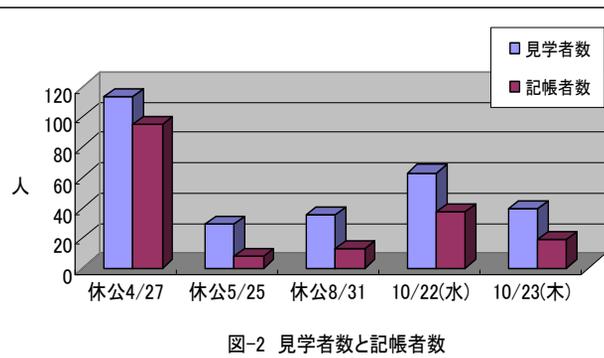


図-2 見学者数と記帳者数

調査の結果、年間の見学者数は、ハンカチノキやヒトツバタゴが開花する春や、多くのカエデ類が紅葉する晩秋に多くなる傾向があることが明らかになった(図-1)。また、記帳方式が始まってから、実際の見学者数は記帳者数の二倍程度ではないかというのが職員の間での通説だったが、今回の調査ではそれが裏付けられるものとなった(図-2)。